

<p><b>部門名：</b> 地域ともにある学校実践部門</p>	<p><b>エントリー名：</b> 宇都宮市立細谷小学校 高根沢 洋志 平成30年度第3回中堅教員研修</p>
<p><b>活動名：</b> 地域連携と働き方改革 学習支援ボランティアの協力を得て</p>	
<p><b>解決すべき課題：</b> 入学式や卒業式の「掲示物」は教員が担う仕事であった。これまでも掲示物の簡素化は進められてきたが、それでも多忙な教員にとっては大変な仕事であった。学校は持続可能な教育活動のため、「地域の人材発掘・活用」、「働き方改革」に取り組んでいるところであり、地域連携教員としてできることがあると考えた。「地域の教育活性化とスクールリーダー」で学んだ、「他人を通して事を成す」の考え方をもとに、宇都宮市魅力ある学校づくり地域協議会地域コーディネーターさんの協力を仰ぎ、地域人材の発掘・活用と教員の多忙感削減に取り組んだ。</p>	
<p><b>目標・方針：</b> ○ 前任校の宇都宮市立城東小学校ではすでに、地域コーディネーターさんを中心にして学習支援ボランティアを組織し、「夏休みの作品」出品作業及び郵送作業の仕事をお願いしていた。その流れで、学習支援の一環として、さらに「掲示物作製」をお願いする。お願いする際、掲示物の参考書籍等を見ながら、学校行事のねらいや雰囲気等の話をし、共通理解を図る。</p>	
<p><b>活動内容：</b> 1 卒業を祝う掲示物作製。 2 入学を祝う掲示物作製。 3 図書室ショーウィンドウ掲示物作製。</p>	
<p><b>活動の成果：</b> ・ 今まで先生方に振り分けられていた掲示物作製の仕事が大幅に減り、成績処理時間の確保や勤務時間の短縮につながった。 ・ 一般の先生方と、地域コーディネーターさん、掲示物作製ボランティアさんとの距離が縮まった。 ・ 保護者や地域の方には、来校時に掲示物を見てもらったり、学校だより等で情報を発信したりすることを通して、学校支援ボランティアの存在が伝わる。 ・ 自分が得意な絵を描いたり作品を作ったりすることが学校のためになり、うれしい。（学習支援ボランティアさんの声） ・ 地域にはすごい方がたくさんいる。さらに学習支援ボランティアの輪を広げていきたい。（地域コーディネーターさんの声） ・ 学年末に「掲示物を作らなければ」というプレッシャーから解放され、心穏やかに子供たちと向き合える。（教員の声）</p>	
<p><b>アピールポイント（アイデアや工夫）：</b> ・ 学習支援ボランティアさんの「地域人材」の力を生かしつつ、さらに教員の仕事削減という「働き方改革」にもつながり一石二鳥である。 ・ 教員が自分たちの時間を削って作成する掲示物よりも、はるかにクオリティの高い掲示物が作製される。 ・ 掲示物作製にかかる費用は、魅力ある学校づくり地域協議会の予算があてられる。</p>	

写真1 卒業式掲示物①



写真2 卒業式掲示物②



写真3 入学式掲示物①



写真4 入学式掲示物②



写真5 図書室ショーウィンドウ掲示物①



写真6 図書室ショーウィンドウ掲示物②

